

円福寺愛育園少年少女野球団が wins 杯 B 戦にて初優勝しました。



おひや

No.310  
平成 30 年 11 月 10 日発行  
社会福祉法人円福会  
円福寺愛育園  
園長 青谷幸治

## 祝 創立 70 周年

理事長 藤本光世

記念式典の月になりました。おいでくださった皆さま、ご支援いただいている皆さま、大勢の関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

70 周年記念事業として主に次の二つを実施しました。

### 1. 管理棟・児童棟の大規模改修

職員室・児童棟ホール・食堂・図書室などの冷暖房工事、男女のお風呂を全面改修、管理棟二階への昇降機設置、管理棟前下段の整備、全館 LED 化、キッチン改修工事

昔は、壁やドアに穴をあけたり、ドアを傷つけたりする子がいました。でも今は一人もいません。子どもたちは施設を大切に使っています。

記念誌から子どもたちの作文を紹介します。

『私は、平成二十二年五月二十五日に四歳半でこの円福寺愛育園に来ました。現在は、中学二年生です。当時の愛育園は、人も多かつたし、建物が少しこわれていたり・・・私がまだ幼かった頃の愛育園は、荒れていたことを覚えています。そのえいきょうで、私もだんだん言葉使いが悪くなったり、その自分の姿がこんらんしてしまったりしてしまっただけで、青谷園長先生、理事長先生のおかげで、過去の園とは真逆の良い愛育園が戻ってきたのカナ？と思っています。今年の七十周年で建物も新しくなり、いろんな所の工事がはじまって、昔の園とは雰囲気から変わりつつあり最近、いろんな目標もみつかって、毎日の生活が楽しいな！と思えるようになりました。』

大規模改修工事によって雰囲気が変わった愛育園で、子どもたちが毎日目標に向かって一生懸命過ごしてほしいと願っています。

### 2. 70 周年記念誌の刊行

70 年を振り返り、これからの愛育園の方向を明らかにしようと、記念誌を刊行しました。私が読んでほしいのは、子どもたちの作文です。ここに、愛育園の子育ての事実が示されています。

愛育園に来る前の悲惨な生活と愛育園に来てから劇的な、奇跡とも言える変化が。

私は、これを読んで涙が出ます。子どもたちの努力に感動します。凄いなーと思います。生ま

れながらに悪い子は一人もいない。子どもを悪くするのは大人の環境であることを事実で示しています。そして、児童養護施設がここまでできることを示していると思います。

子どもたちの最大の権利は、幸せな人生を過ごすことでは無いでしょうか。人は自分を幸せにすることはできません。他人を幸せにすることによって自分が幸せになれる。それを、生活の中から体験して心の柱とする。すると、他人の幸せのために尽くす人生を送ることができ、自分が幸せになれるのです。その権利の保障のために、私たち社会的養護を担うものは力を合わせて努力すべきではないでしょうか。

愛育園の子どもたちの作文には、そのような子どもたちの心が、輝いています。その事実に感動します。紹介しましょう。

『私の将来の夢は世界中の困ってたりする人に少しでも自分の力を貸すことです。園に来て自分が不安だった時に自分が納得するまで話しを聞いてくれて「がんばれ」って軽い気持ちじゃなく言ってくれてすごい自分の力になれたからです。園の先生を見て困っている人とかを助けて人の役に立ててがんばる人になりたいって思いました。』この子は、園に来るまで学校に行っていないませんでした。

人は、事実で考えるでしょうか。残念なことに、児童養護施設の子どもの事実を隠さずに社会に示すような実践はなされてこなかったと思います。少なくとも、私が施設長を務めた 9 年間で、さまざまな施設長会議や研修に出席しましたが「こうすればよくなるのではないか」とか「国の示す方針はこうですよ。こうしなさい。」という講演や説明はあったものの「このようにしたら子どもたちがこうなった」という報告は皆無でした。

円福寺愛育園の 70 周年記念誌は、日本で初めての児童養護施設の実践記録であると思います。

そして、社会的養護のあり方を事実で示した書と思います。

記念誌は 1,000 部作成いたしました。記念式典においでになった皆さまや関係者の皆さまにお贈りいたします。そして、ご希望の方にもお贈りいたします。円福寺愛育園の養育実践が、全国の社会的養護の指針となることを願っています。

記念式典には、子どもたち全員が出席します。子どもたちと一緒に式典を味わってください。子どもたちと一緒に食事をしてください。子どもたちのパフォーマンスをご覧ください。子どもたちの後片付けの様子やおもてなしの動きをご覧ください。全ての子どもたちの振る舞いは、皆さまに感動をプレゼントすると思います。

感動の記念式典の挙行をお約束して。

## 祝 創立 70 周年

園長 青谷幸治

創立 70 周年記念おめでとうございます。私は、平成 9 年 4 月 1 日入社し、途中退職をしました

が現在通算 17 年を愛育園で過ごしています。

今思えば、入社当初はなかよし棟（当時）の中高生男子を担当しましたが、子どもたちの様子は目が座っている、無視をする、新入りを受け入れないなどの雰囲気戸惑い、中高生とまともに関わらず毎日が恐怖だったことを思い出します。いつしか児童と関わることができず職員室から動くことができませんでした。上司から言われていることも理解できず、理解できても動けず本当にこの仕事が自分に向いているのかわかりませんでした。夜になれば卒園生や園の子の友達が外をバイクで暴走し子どもたちの気を引くようなことが日常茶飯事でした。園の子どもたちは、喜んで嘸し立てている様子を見ると子どもたちの将来はないなと思いました。もっと自分の力を信じて大きな夢や目標は持てないものかと若いながら思っていました。部活や生徒会活動などもっと青春できないか。本気になって何でも取り組み涙を流したり、汗をかいたり若い時にしかできない経験が愛育園の子どもたちにできないものか。感動がある園にできないものか。そんなことを考えていました。でも子どもたちに関わっていない自分にも情けなく思っていました。当時、職員の言うことは絶対という風潮があり自分も仕事に慣れてきたころ「あれをやれ」「これやっつけ」など今では考えられないぐらい偉そうな態度をとっていました。ですので、毎日ケンカになっていました。おっしゃんの前でも朝から外でケンカしたこともありました。おっしゃんからは「まだまだわかっていないな」と言われているようでした。

4 年目ぐらいから子どもたちとの関係も良好になり、何をやっても楽しく子どもたちと共感しあうことが増えました。1 年目から思い描いていた子どもたちと日々感動ある生活をしたい。この実践が始まったのも 4 年目で野球を通して学び、共感し、感動をたくさん作ってきました。

副園長に就任してからも毎日が子どもたちとともに感動ある生活を求めて「子どもたちの自立の力を身につける」「養育の基本三則」の実践と施設に在ること暗い生活を送るのではなく、施設に在るから立派に自立して社会で活躍できることを信じて、職員が環境を作り養育に取り組んだ結果、この 5 年で見違えるほど子どもたちは心も身体も成長し、目を輝かせて夢を語ってくれる子どもたちになりました。今も入社当初に思い描いた感動ある生活を忘れることなく、子どもたちと泣いたり、笑ったり、喜び合う生活がこの愛育園に生き続けています。

時代の変化に適応しながらも愛育園の心の教育は 70 年の節目を迎え、次の 100 年目に向けてスタートします。そして感動ある生活を求めて日々、子どもたちと関わっていきたくと思います。

## 第 2 1 回 愛育園祭 露店 ジェットコースター

あおぞら保育士 佐々木 弘観

10 月 20 日、第 2 1 回目の愛育園祭が行われました。

愛育園祭は他の行事と違い、自分たちで作上げたものを楽しむのではなく、地区の方や学校の先生、友達など日頃お世話になっている大勢の方々をお招きし、感謝を伝え、子ども達の頑張っ



ている姿を見ていただけるようにするものです。

今年も、午前はお祭りとして屋台を出したり、午後は小学生、中高生による発表を行いました。これまで中高生は屋台の準備や発表の練習を率先して取り組み、小学生も一生懸命、歌と合奏の練習を重ねて来ました。

今年は露店の数も増やし、多くの方々に楽しんでいただける様に計画してきました。私が

担当したのはジェットコースターでしたが、これは体育館の半分を使った巨大なものでした。安全性や大きさ、形、仕組み、など初の試みで分からない事だらけでしたが、2 週間という時間の中で徐々に完成に近づいてきました。露店には担当の児童もいますが、準備に時間がかかり、間に合いそうになかった時、係でない子も率先してお手伝いしてくれたことでなんとか当日までに完成させることができました。当日は何度も乗りたい！という子がたくさんいて、笑顔を非常に多く見ることができました。

一番大変なのは片付けです。2 週間かけて作り上げた物ですので、1 週間、早くて 5 日くらいかけて解体していく予定でしたが、中学生の男の子 6 人とでなんと 4 時間で解体することができました。これには非常に驚かせました。今までは指示させないと動けないという事が多かったのですが、みんな自分で率先して動いていき、4 時間という長い中黙々作業に取り組む姿はとても格好良かったです。

当日ご来園下さった皆様、本当にありがとうございました。来年も今年以上の愛育園祭にできるように子ども達と共に頑張っていきたいと思っています。

## 愛育園祭 露店

あおぞらホーム 保育士 宮原徹

愛育園祭の露店では、子ども達と一緒にゲームコーナーとして「VS 嵐」というテレビで人気のアトラクションのコーナーを担当しました。子ども達の意見を参考に「ローリングコイントワー」と「ジャイアントパズル」と「バンクボウリング」という 3 つのアトラクションを子ども達と手作りで準備しました。巨大なアトラクションもあり準備は大変でしたが前日までの間、帰園後の時間を使い特に中高生男子と協力し、絵具でアトラクションの絵をかいたり、色塗りや段ボールを組み立てたりと準備を進めました。コーナーの担当ではない児童も休日などの空き時間に積極的に協力してくれた姿はとても有難かったです。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

当日は3つもアトラクションがあるため、それぞれのコーナーに児童がついて来て頂いた方をおもてなしました。A君は中学生になって初めての愛育園祭で今まで楽しむ側だった露店も今回は逆の立場での参加になり、コーナーや得点の説明を一人一人のお客さんにすることをほぼ一人で任されるという大役を任されました。最初は不安気な様子でしたが、うまくお客さんとコミュニケーションをとり円滑にコーナーを進めることが出来て、A君にとっても大きな成長の機会になったの



ではと思いました。予想に反して景品の「特賞」と「一等賞」が多く出てしまうという大盤振る舞いになってしまいましたが、それだけ来ていただいたお客さんがより楽しんでいただけたのかなと思います。

来年も今年以上に来て頂いた方に楽しんで頂き素晴らしいおもてなしができるよう、子ども達と協力してより良いものを作り上げていきたいです。

#### 愛育園祭中高・職員発表

まごころ 渡邊梓

今年で21回目を迎える愛育園祭での中高生・職員の発表は「ショートフラッグ」でした。数年前の愛育園祭で大きな旗を使ったダンスを行ったようですが、今年は、両手に60cm程の旗を持ち、両手の旗を回しながら踊りました。旗が違くと回し方も異なり、職員も子どもも初めてのショートフラッグに苦戦しました。夕食後19時～20時という限られた時間での練習だったので、集中力が必要です。ただ、愛育園のみんなは毎年、愛育園祭での発表や一昨年までは愛育園運動会での応援合戦の練習があり、集中力や吸収力はピカイチです!!練習では隣近所と確認しながら一生懸命覚えようとする姿がありました。始めはどのようなことかと思いましたが、日に日に完成に近づいていくことで、さらに気合も入り



本番では、例年を上回るお客さんで体育館がいっぱいでした。緊張感からそわそわしている子もいましたが、本番が始まると、緊張も感じさせず堂々と踊っていました。息の合ったフラッグ回しは本当に格好良く、迫力もあり、会場のお客さんから歓声

(平成30年11月10日発行 月刊「円福」508号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

が上がりました。アンコールをいただき、再演技しましたが、その際ものびのびとした表情で演技している姿を見て、子どもたちの力はすごいなと改めて感じました。みんなで力を合わせれば難しいことも乗り越えられる、みんなの力が集まれば人々を感動させられるのだということが、こうした発表を通して子どもたちに少しでも伝わればと思います。次は11月11日の円福寺愛育園の創立70周年記念式典での発表があります。中高生・職員の力を合わせて素晴らしい発表にしたいと思います。

#### 『書道パフォーマンス』

まごころ保育士 竹内早季

昨年に引き続き、今年の愛育園祭でも書道パフォーマンスを担当させていただきました。昨年初めて担当し、計画を立てて準備していくことの大変さと当日みんなで息を合わせて成功させることができた達成感を味わい、今年も昨年以上のものができたらと思い、案を考えていました。しかし、テーマやデザイン、配役など考えることは山積みで、今までのパフォーマンス内容と被らないようにするのはとても難しかったです。今回は黒い紙を使うことは早い段階で決まっていたのですが、そうなったときの色の使い方もなかなか思いつかず、自分の中で何回もデザインを書き直しました。先生方のアドバイスもあり、テーマが「歩み、成長の過程」になったところで中高生のみんなに今までの自分を振り返って成長できたことやその理由などをアンケートを取りました。みんなそれぞれ素直な気持ちを書いており、それをもとに文章を考えました。文章も子どもたちに多数決を取りましたが、Aさんが「すごい良いね!」と言ってくれたこと



がとても嬉しかったです。そして、いざ練習を始めると文字の大きさやバランスに悩んだり、大きな紙で本番形式の練習をしたときはなかなか曲と合わなかったり、人の入れ替わりが上手いかなかったりと問題はたくさんありました。本番2日前に「文字の色をいくつか変える」と決まったときは「こんなぎりぎりで大丈夫かな。」と本当に不安でした。ただ、どんな変更になっても子どもたちは一生懸命練習して、集中して取り組んでくれていました。積極的に準備を手伝ってくれたことにも本当に感謝しかありません。そして本番を迎え、たくさんのお客さんの前で堂々とパフォーマンスを披露することができました。練習では一度も曲と合わなかったのに、本番はぴったりと収まり、今までで一番の完成度でした。やりきったときのみんなの達成感に満ちた笑顔が見れて頑張

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

って良かったと感じました。みんなで一つのものを作りあげることの楽しさと嬉しさを改めて味わうことができ良かったです。

#### 愛育園祭 小学生の発表

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり

10月20日に第21回愛育園祭が開催されました。天気にも恵まれ、たくさんのお客様が来て下さいました。私は、昨年に引き続き、午後の発表の部の小学生の発表を今年も担当させて頂きました。昨年までは、合唱2曲でしたが、今年は違うことにも挑戦しよう、ということになり、鍵盤ハーモニカとリコーダーで“星に願いを”を合奏しました。子ども達の知らないメロディーやリズムがあったり、二部合奏に挑戦したので、形になるまでに時間がかかりましたが、子ども達は積極的に練習に取り組んでくれたり、高学年は優しく低学年に教えてあげたりする姿が見られ、とても嬉しく感じました。愛育園祭の週に入り、ようやく形になり、みんなホッとしていました。また、合唱は“またあえる日まで”を合唱しました。歌を歌うのが好きで、みんな上手なので、歌はすぐに歌えるようになり驚きました。

本番は、子ども達は意外にもあまり緊張しておらず、職員である私の方が緊張していましたが、練習の成果を十分に発揮し、お客様に感動して頂ける発表をすることが出来ました。アンコールまでして頂き、子ども達も驚いていましたが、2回目も楽しく歌わせて頂くことが出来ました。

練習期間が少し短かったので、休みなくほぼ毎日の練習でしたが、嫌な顔一つせず、すぐに集合して、パッと練習を始められる小学生は素晴らしかったです。来年も今年以上にお客様に感動して頂けるような発表が出来ればいいな、と思います。



#### 児童感想

小学2年 S.N君

きのうは、あいいく園さいがありました。おとうさんがきて、くれました。さいしょにきやりをしました。あおぞらホームのみんな、でやりました。むづかしかったです。ロテンで、さいしょに行ったところは、プチシューに、行きました。つぎに行ったところは、射的に行きました。射的は2とうで、スティッチのようようをもらいました。つぎに行ったところは、ジェットコースターに行きました。つぎに行ったところは、たいくかんからおりて、わたあめをたべに、行きました。おいし

(平成30年11月10日発行 月刊「円福」508号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

かったです。さいごに行たところは、フルーツインジュースに行きました。おいしかったです。3時にいろいろ会をしました。かんそうのやつであおぞらホームの小学生がだれも言わなかったからとみさわTにだいひょうして行って言われたからぼくがだいひょうしてきやりのかんそうをいったらきんちょうした。

小学5年 R.N君

今日、あいいくえんさいがありました。午前中はろてん、午後は発表をやりました。ろてんで、2とうと1とうをとれてよかったです。発表では、「またあえる日まで」とリコーダーで「星に願いを」をやりました。とてもうまくできました。



高校2年 S.A君

今回は3回目の愛育園祭で愛育園は今年で創立70周年という節目にあたります。愛育園祭で自分は今まで友達を誘ったことがなく高校で生徒会の役員になって先輩を誘ったら絶対行くと言ってくれて他の先輩も連れてきてくれました。先輩が自分のために来てくれたことがすごく嬉しかったです。露店では先輩と話しをしながら回りました。発表の部では、ショートフラッグをしました。先輩も最後までいてくれて発表の時はすごく緊張しましたが最後までミスなくできたのでよかったです。

今年も、第21回目の愛育園祭がありました。

私は園に入所してからずっと、ポスターを描かせてもらっていて、今年も任せてもらいました。愛育園のこれまでの写真を貼り付けて作ったネガと、青と橙の旗を持っている人の絵はモノクロで描き、四角い枠の中だけカラーで仕上げました。ネガはこれまでの歴史を、旗を持つ人を含む色の付いた枠は、今の一瞬を撮った写真のように、「これから」を大切にしたいという意味を込めています。とても思いが詰まった作品になったと思います。

今回の愛育園祭で一番不安だったことは、書道パフォーマンスでした。練習では、早すぎたり遅すぎたりしてしまったり、本番の数日前まで変更点がありました。また、私は一番大きな文字を書かせてもらうことになり、上手くいくだろうか、とずっとずっとドキドキしていました。迎えた当日、私たちの書道パフォーマンスは大成功でした。今までで一番上手くできたと思います。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

今年の愛育園祭では、多くのことを任せてもらいました。開会宣言やポスター、発表のソロパートなどをやったことで、私も少しは何かやり通せるんだ、という自信ができました。また、周りの方から「ポスター上手だね」「いつものすみれじゃないみたいに堂々としていたね」と声を掛けてもらいました。このような機会を与えてくれたことに感謝したいです。

園で生活できるのも、残り少なくなりました。この経験を活かし、下の子達に憧れてもらえるような社会人になりたいです。また、今年来てくれた卒園生のように、私もしっかり働いて、来年の愛育園祭に来たいと思いました。そのためにも、残りの生活を充実したものにしたいです。(高3 S.Y)



私は今回の愛育園祭が初めてでした。毎年ダンスをやることは聞いていたけれど、今年はショートフラッグで旗を使うダンスでした。私は今までにやった事なんかなくて、どうしようと焦りました。でも、みんな一人一人出来ないところを繰り返し踊って、みんなで一つになって合わせようと頑張っていて、本当にすごいなと思いました。本番も間違えたらどうしようと思っていましたが、みんなが一つになろうと頑張ってくれたから、私も頑張ることができました。ダンスが終わった時、「あ〜、終わっちゃった」と思い、正直少し寂しかったけど、見に来てくれた人がアンコールをしてくれたので、二回目を踊りました。その時は本当にうれしかったです。最後の最後まで頑張っていてよかったです。

開会式では、書道パフォーマンスがありました。書道は元々すごく苦手で、練習の時は字のバランスが上手く取れないし、もっと相手が見やすい字にするのに必死でした。でも、先生たちにアドバイスをしてもらって少しは上達しました。書き終わったあとに自分が書いた字を大きい声で言うとき、元々滑舌が悪いし、人前で大きい声を出すのは得意じゃありませんでした。このままだったらどうしようと色々考えて、声のボリュームを上げるようにしました。本番で実際にやって、字のバランスはもう少しだったけど、自分ができる事は全部出し切ったので良かったです。

露店では、ポテトを売る担当でした。お客さんがすごい来てくれて嬉しかったです。私は、本当に人の笑顔を見るのが好きです。ポテトを渡したら、「ありがとう」って言って、笑顔で食べているのを見て、すごいうれしかったし幸せでした。愛育園祭って本当にいい行事だなんて思いました。来年も、これからもずっと幸せな愛育園祭になればいいと思います。(中3 A.S)

(平成30年11月10日発行 月刊「円福」508号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

今日は愛育園祭がありました。友達が来てくれました。開催式の後、中高生の書道パフォーマンスがありました。すごいなーと思いました。露店もたくさんあって楽しかったです。友達と一緒に露店をまわりました。綿あめの青色を食べたら、へらが青くなりました。体育館のジェットコースター、VS嵐、射的も楽しかったです。フリフリポテトもフルーツインジュースもおいしかったです。発表も、歌もリコーダーも上手にできてよかったです。中高生と先生の発表もすごいなーと思いました。楽しかったです。

(小5 U.S)

あおぞらホームだより



あおぞらホーム 石龍成己

今年も残すこと2か月となり、寒い日が続くようになりました。しかし、今月もあおぞらホームは元気いっぱい1か月を過ごしました。行事としては、何といても第21回愛育園祭がありました。出し物の発表だったり、出店の準備をしたり、大忙しの1か月でした。基本的に夕飯後の時間を使っての準備でしたので、基本的には皆疲れているところではあると思いますが、部活終わりの子も、これから塾に行こうとしている子も、積極的に時間を許す限り手伝ってくれました。もっと、職員主体で忙しい行事になると思っていましたが、子ども達の頑張りに、とてもやる気を感じさせられる行事となりました。当日も、地域の人々や子ども達が誘ってくれた友人にも来園頂き、とても大盛況な形で終わることが出来ました。また、発表でも理事長先生よりアンコールを頂き、達成感のある行事となりました。

愛育園祭を終えてからは、11月より70周年記念式典の準備も始まりますので、それぞれ自分たちの時間を大切にして過ごしています。受験や検定試験を控えている者は、頑張ってお勉強をしています。小学生では、日曜日の日中の時間を使い、千曲川の土手までサイクリングに行ってきた



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

した。川のほとりに水溜りのような場所があり、そこにメダカを見つけ、協力してメダカの捕獲をすることにしました。メダカはとてすばしっこく、手づかみでは全然獲ることができません。そこで、Y君とR君は、持ってきたビニール袋を使って追い込む作戦に出ました。はじめはとて苦戦していましたが、なんとか捕獲に成功しました。なかなか、水中生物に触れる機会がない為か、2人共、とてメダカの動きに興味をそそられていました。

70周年記念事業として、児童棟の壁紙や畳が日々新しいものになっています。日々の変化に子ども達も気付いており、「あっ、ここ変わった！」と嬉しそうに話してくれています。その変化の中、新しくなることは当たり前の事ではない事、大切に扱わなければならないことを伝えていきます。11月からは記念式典に向け準備が活発になっていきます。園全体で一致団結することも大切ですが、まずは、あおぞらホームでも職員、児童共に協力し合っこの記念式典を迎えられればと思います。

まごころホーム日より

まごころホーム 橋本 雅

10月が終わり2学期も残り2ヶ月となりました。寒さに負けず毎日元気に過ごしています。

小学生は、11月2日に行われる音楽会に向けて日々練習しています。早めに宿題を終わらせ、残りの時間は練習の毎日です。欠かさず練習しています。日に日に上達する姿を見ると本番が楽しみです。

中学3年生は3回目の総合テストが行われました。それぞれ目標にしている高校を目指し勉強に励んでいます。また、テストを見直しながら学習時間を増やしたり、1日の計画を立て取り組んでいます。受験まで残り4ヶ月となりました。目標の高校に向かって日々頑張っています。私達もしっかりサポートしていきたいです。中学1・2年生は各部活で新人戦が行われました。新しいチームで臨む初めての大会でしたがとて頑張っている姿を見ることができました。これからも練習に励み素晴らしいチームを作り上げていってほしいです。

高校生はそれぞれの目標、夢に向かって勉強、部活に励んでいます。11月は期末テストがあります。目標に向かって頑張っています。

また園では、愛育園祭が行われました。木遣り、書道パフォーマンスをはじめ小学生、中高職員



(平成30年11月10日発行 月刊「円福」508号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

の発表をしました。沢山の方々にお越しいただくことができ良かったです。様々な発表も練習を重ね成功することができて本当に良かったです。最高の愛育園祭でした。これからも、それぞれの目標に向かって頑張っています。来月は、70周年記念が予定されています。みんなで協力し作り上げていきたいです。

調理室日より

栄養士兼調理員 原 未華

季節が秋へと変わり、秋晴れは続いています。朝と夜は冷え込む寒さです。園の子ども達は寒さには負けずに元気いっぱいです。10月は女子児童3名の誕生日メニューをしました。3人とも頑張り屋で、それぞれ素敵な夢を持っているので、ぜひ実現して欲しいと願っています。

10月20日は第21回愛育園祭でした。今年は去年よりも新しい露店の種類が増えました。多くの方々に足を運んでいただき、ご来園されたお客様全員に楽しんで頂けたと思います。あおぞら児童とあおぞらホームの先生方による木遣り、児童開催宣言、中高女子とまごころホームの先生方による書道パフォーマンス、小学生の合唱・合奏、中高生のステージ発表、どれも本当に感動しました。

限られた時間の中で、準備や練習に一生懸命励み、いつも率先して動いてくれる子ども達の姿はもちろんですが、勤務関係なく、遅くまで子ども達のために愛育園祭の準備や練習に打ち込んでいた先生方の努力もあってからこそ、感動にあふれ、子ども達と先生方の強い団結力と一体感を感じられる愛育園祭になったのだと思います。楽しい一日を過ごさせていただきました。

この時期は体調を崩しやすく、インフルエンザも流行しつつあります。手洗い、うがいは欠かせませんが、風邪に負けない体づくりに必要なのは、栄養・運動・睡眠だと思います。3つの中でも栄養面、食事面はサポートできるように調理全員で協力して心身ともに温まる食事を提供していきたいです。

これからある行事も子ども達とともに楽しんでいきたいです。

